

食道癌に対する放射線治療

食道癌は人口 10 万人当たり 17.9 人の割合で新規に診断され、男性では 1 年間 10 万人当たり 31.0 人、女性では 10 万人当たり 5.6 人と男性に多い傾向があります。

5 年生存率は I 期で 70%程度、II 期で 50%程度、III 期で 30%程度、IV 期で 15%程度です。

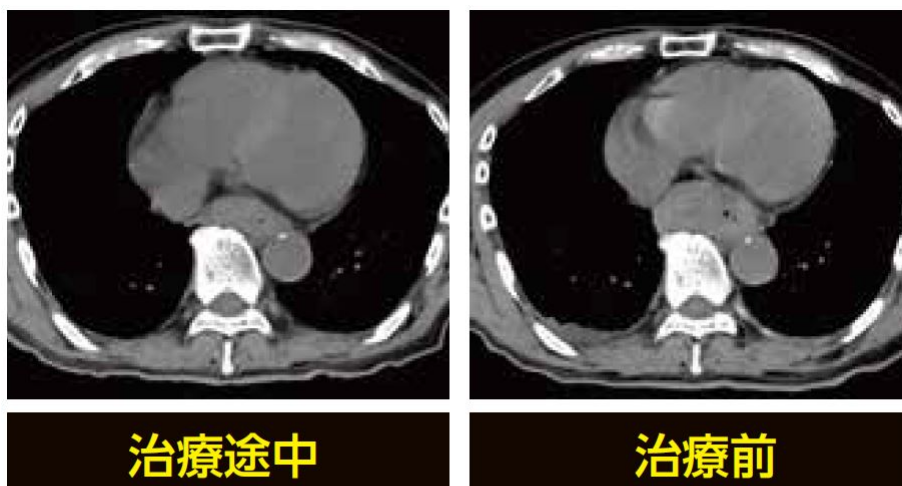
食道癌の治療法は早期であれば内視鏡的粘膜切除術や手術、進行癌でも手術可能な場合は手術が第一の治療法です。

しかし、年齢や心疾患、糖尿病などの合併症のため、手術が出来ないと判断される進行食道癌の患者様も一定数おられます。上記の方々に対する治療法の一つとして抗がん剤を併用した化学放射線治療や放射線単独療法があります。

■具体的な症例

症例は 70 代男性、脳出血、狭心症の既往があります。

嚥下時つかえ感があり、当院消化器内科の精査にて、進行食道癌で胃の近くにもリンパ節転移があると判明。脳出血、狭心症などの合併症があり、食道癌自体も進行しており、手術適応がなく、放射線単独療法方針となり、紹介受診となりました。



70代男性、食道がん及びリンパ節転移、食道全体を含めて 46.2Gy/22回を施行

〈図 6：食道がん 治療前後の MRI 画像〉

放射線治療は食道癌及びリンパ節転移、食道全体を含めて 46.2Gy/22 回を施行、その後食道癌及びリンパ節転移の範囲に絞って追加照射 16.8Gy/8 回、合計

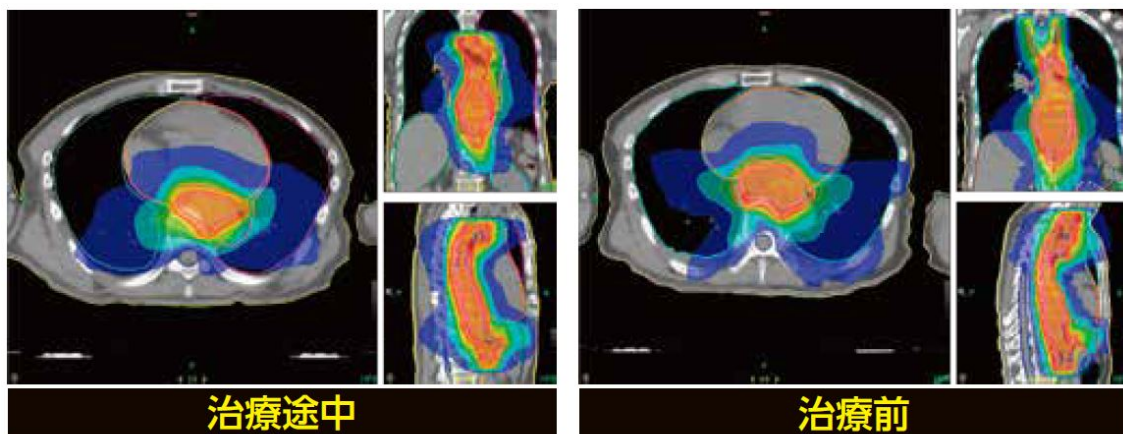
63Gy/30回を施行しました。

治療開始前及び治療途中の画像、照射範囲の図を示します。

治療途中ですが、明らかに食道癌病変が縮小しています。

患者様は当初食事が喉を通らない状態でしたが、徐々に食事が食べられるまでに改善しています。

放射線治療によって進行食道癌でも生活の質を改善する場合もあるのです。



70代男性、食道がん及びリンパ節転移、食道全体を含めて46.2Gy/22回を施行、その後食道がん及びリンパ節転移の範囲に絞って追加照射16.8Gy/8回、合計63Gy/30回を施行

〈図 7：食道がんに対する放射線治療〉